



「タイル」名称統一100年記念

企画展

「タイル」までのプロローグ

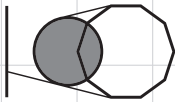
—— 手わざの時代の陶磁製建築装飾

2022年 4月9日(土) - 9月4日(日)

会場 / 多治見市モザイクタイルミュージアム 3F ギャラリー



モザイクタイルミュージアム
MOSAIC TILE MUSEUM Tajimi



「タイル」名称統一 100 年記念

企画展

「タイル」までのプロローグ

手わざの時代の陶磁製建築装飾

2022年 4月9日(土)ー9月4日(日)

休館日:月曜日(休日の場合は翌平日)

開館時間:午前9時~午後5時(入館は午後4時30分)

会場:多治見市モザイクタイルミュージアム 3Fギャラリー

主催:多治見市モザイクタイルミュージアム

後援:美濃焼タイル振興協議会、全国タイル工業組合タイル名称統一100周年記念委員会

観覧料:[一般] 310円、[団体] 250円(常設展観覧料でご覧いただけます)

高校生以下無料、障がい者手帳をお持ちの方及び付き添い1名様無料

※新型コロナウイルスの感染状態等により制限をかけさせていただく場合があります。

本展は、手わざを生かした明治、大正時代の敷瓦や陶磁板などを紹介することによって、100年前に起きた「タイル」の変革と、その序章(プロローグ)に焦点をあてる企画展です。

1922年4月12日、平和記念東京博覧会の会場で開催された全国タイル業者大会において、様々な呼称が付されていた建築を被覆するやきものが、「タイル」と呼ばれることになりました。

この出来事は、単なる名称の統一にとどまらず、手工芸的な位置づけで作られてきた様々な陶磁器製の建築装飾が、工業的な基準をもつ「タイル」へと転換していったことを表す、タイル業界における大きな事件でした。

殖産興業を推進する明治政府は、万国博覧会に掛軸や障屏画同様の繊細な絵付けを施した陶磁器を出品して好評を得ました。瀬戸と美濃で製造されたゆがみのない陶磁板は、その技術力の高さを感じさせます。ドイツ人のワグネルが開発した「旭焼」のタイルも、こうした日本の絵画表現を最大限に生かした究極の装飾タイルというべきものでした。一方、敷瓦の製造が盛んになった瀬戸では様々な銅版転写の図案が考案され、京都の陶磁器試験所では、陶芸の技術を生かした日本的なタイルや建築装飾の表現が研究されています。しかし、こうした手工芸的な「タイル」は名称統一後の時代、効率的な機械製造による製品に凌駕されていくのです。

本展によって日本的な表現を摸索し、試行錯誤を重ね、当時の技術の粋を集めて作られた統一前夜のタイルを感じていただければ幸いです。



旧折戸湯本業敷瓦、瀬戸、明治時代、モザイクタイルミュージアム 蔵



藤と松の浮彫陶板、商工省陶磁器試験所、昭和4年、滋賀県工業技術総合センター信楽窯業技術試験場 蔵

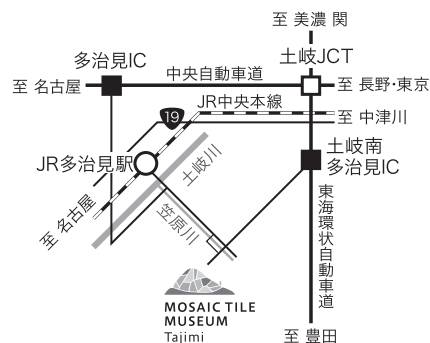
表面掲載作品

滋賀県立陶芸の森 陶芸館 蔵

- 釉下彩装飾陶板「枝垂桜に山雀(ヤマガラ)」「風車に蝶」「釣り針に桜花と鳥」、旭焼、明治23~26年

滋賀県工業技術総合センター信楽窯業技術試験場 蔵

- 藤と松の浮彫陶板、商工省陶磁器試験所、昭和4年
- 牡丹文装飾陶板、京都市陶磁器試験場、大正7年頃
- 浮彫花文陶板、商工省陶磁器試験所、大正11年頃
- 金彩六角装飾陶板、商工省陶磁器試験所、大正11年頃



■公共交通機関

名古屋から、JR中央本線下り、多治見・中津川方面行き、多治見駅下車。多治見駅から東鉄バス(約20分の乗車)、東草口行き、羽根行きにて、モザイクタイルミュージアム下車。

■自動車

多治見ICから約25分。土岐南多治見ICから約15分。

※駐車場は笠原中央公民館などの合同駐車場です。駐車スペースに限りがありますので、公共交通機関のご利用をお勧めします。

タイル名称統一100周年記念プロジェクト

1922年4月12日、平和記念東京博覧会の会場で全国タイル業者大会が行われ、それまで化粧煉瓦、敷瓦等様々に呼ばれていた「やきもの建築装飾」の名称を、「タイル」に統一することが宣言されました。2022年4月12日、その日から100年を迎えます。それに伴い、全国タイル工業組合が、「タイル名称統一100周年記念プロジェクト」を発足し、特設サイトとプロジェクトを象徴する100周年記念ロゴマークを制作しました。

※巡回展「日本のタイル100年」(INAXライブミュージアム4月9日~8月30日) 9月17日から多治見会場にて開催予定

記念サイト



モザイクタイルミュージアム

MOSAIC TILE MUSEUM Tajimi